

別紙様式

組織評価の改善状況報告書

令和元年6月6日

評価会議議長 殿

工学部長

組織評価に関する実施要項第10条に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成30年度の改善状況を報告します。

要改善事項
基準2 平成25年度から改組が計画されているが、社会のニーズにこたえられる工学部/工学研究科になることが期待されている。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年4月から改組がスタートする。この改組を成功させるために、工学部長補佐室に評価・改組企画室を設置した。この企画室を中心に、各学科・専攻の教育・研究において成果を上げるために何を重点的にすべきかを検討し、年次進行で実行する。
改善状況
平成30年度は工学部長補佐室において、評価・改組企画室を中心に工学専攻の定員増を検討し、文科省と協議を行った。概算要求にあげる見通しがついた。評価・改組企画室が機能していると判断する。
達成年度（予定を含む）
平成30年度

要改善事項
基準9 管理運営体制の更なる充実が必要である。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
大学が変革期にあり、工学部/工学研究科の改組で4学科5専攻が5学科6専攻に増えて、管理運営に関する業務がかなり増えている。今まで組織の整備を行い、管理運営体制の強化を図ってきた。平成25年度からは、工学部長補佐室に評価・改組企画室を新しく設置し、教育・研究・社会貢献活動の更なる充実と効率化を目指す。
改善状況
平成29年度に浜松キャンパス学部関係の事務をとりまとめ、浜松キャンパス事務部長を配置し、浜松総務課・浜松教務課・浜松学生支援課体制となった。平成31年度からは浜松総務課に副課長を1名増員し、業務分担の適正化を図る。工学部以外の部局も含み浜松キャンパスの管理運営体制の効率化が図られたと判断する。
達成年度（予定を含む）
平成30年度